

アリス九號.

BAND-ON-THE-RISE!

1月14日、アリス九號.にとって3枚目となるアルバム『VANDALIZE』がリリースされる。そこにはメンバー5人が好きな音楽、やりたい音楽が純粹に詰め込まれており、アリス九號.として非常に密度の濃い仕方がりとなった。さらに、タイトルの“破壊する”という意味が象徴するように新たな試みもあって、まさに彼らなりのロック・アルバムが完成したと言えるだろう。それだけに、メンバー個々の思いにも相当深いものがあるようだ。

というわけで、今回はそんな思いを掘り下げるインタビューをお届けしよう。

ついに完成かんせいしましたね、『VANDALIZE』
が！ 個人的こじんてきな感想かんそうとしては、まるでス
ウェーデンのサウナのようなー。

沙我：どういう意味いみですか（笑）

北欧ほくおうサウナって、普通ふつうにサウナで汗あせをか
いたあと、マイナス十何度じゅうなんどっていう外気がいき
にあったりするじゃないですか。それ
ぐらい緩急かんきゅう激しい楽曲がきょくが入はいっているな
と。

虎：ああ！（笑）

いつからスタジオはいに入はいってたんですか？

虎：もう常つねにでしたね。

ヒロト：曲きょくによっては去年きょねんから作つくって
ました。

ということは、アルバムこうぼきょくの候補こうぼ曲きょくって
相当そうとうの数かずだったんじゃないですか？

沙我：ブログで、今までいま作つくってきた70
曲きょくの中なかで……みたいなことかを書かいたら、

このアルバムきょくのために70曲か書かいたって
勘違かんちがいするファンひとの人ひとがいたんですよ。

それで“すごいですね、今回こんかいは！”って
コメントちがくれたんですけど、それは違ちがう
んで（苦笑くしやう）

いずれにしても、いつもよりたくさんの
曲きょくが上あがったわけでしょ？ そこから
どういきじゆんう基準きじゆんでアルバム用ようの曲きょくを選えら
んだんですか？

虎：まず、アルバムつくを作おもろうと思ときった時とき
に「the beautiful name」っていう曲きょく

があったんだよね？ 沙我君くん！

沙我：そうですね、ありました（笑）

虎：で、この曲きょくが出来できた時ときに、これは
1曲目きょくめにもっていきたいって話はなしになっ
て、そこからの流れながで曲きょくを決きめていっ
た……みたいな。

将：もともとは“これがいい、あれが
いい”ってメンバーどうし同士もで持よち寄よっていた
ものがあつたんですけど、最後さいごの最後さいごに
「the beautiful name」がで出てきたんで
す。それが流れながの決きめ手てになりました。

確かに1曲目たし きょくめ、いいですもんね。

虎：ビビりますよね。こんな曲きょく持もって
きたら。

スケールおおの大きかんさを感じかんじますよ。

沙我：最初さいしよはライブひょうげんで表はな現なしやす
いア
ルバムにしようって話はなししてたんで、それ
とは真逆まさかじゃないですか。ただ、この1
曲目きょくめを聴きいたら絶対ぜったいにみんなわかく
れるはずだと思おもって。

ズバリ、わかおもってくれたわけですね。

沙我：はい。このアルバムぜんたいてきって、全体的ぜんたいてき
にすごくポップで、決けつして誰だれに対たいしても
聴ききやすいアルバムおもじゃないと思おもうんで
す。でも、アルバムひょうげんをライブひょうげんで表はな
現なしたら、聴きく人ひとは絶対ぜったいにすごく大きおおな存在そんざい
の中なかのひよとつよの要素ようそになれおもると思おもうんで。
とにかく多おおくの人ひとを必要ひつようとする作品さくひんにな
ったなと。

あつ 熱いですね。あと、^{きょく}曲によってはいろ
んな^{とびら}扉を開けてると思うんですよ。特
に4^{きょくめ}曲目の「Kiss twice, Kiss me
deadly」では、あの^{くん}将君がこんな^{かし}歌詞
を！……っていうくらいエロい^{ろせん}路線で。

将：沙我^{くん}君が、ランディー・ローズばりに
うた^{うた}えと言ってきたので—

沙我：いや、アクセル・ローズ（笑）
ランディー・ローズはギタリストですか
らね（笑）

沙我：^{おれ}俺はアクセル・ローズがやってる
あえぎ^{こえ}声に挑^{ちょうせん}戦するぐらいの^い意味で言
ったんですよ。将^{くん}君はやってくれるだろ
うと思^{おも}って。「ハイカラなる輪舞曲」み
たいな^{きょく}曲もやってきたし。もちろん、
あれとは違^{ちが}う雰^{ふん}囲^い気^きだけど。

将：これまでも“こういうのをやってみ
ました”っていう側^{そくめん}面^だは出^{おも}してたと思
うんですよ。でも、今^{こんかい}回は全^{ぜん}曲^{きょく}無^む理^りなく
自分^{じぶん}達^{たち}の中^{なか}にあるルーツに正^{しょう}直^{じき}になれ
たような^き気がします。自分^{じぶん}達^{たち}が聴^きいてき
た音^{おん}楽^{がく}に近^{ちか}くなってるというか。なので、
ただ面白^{おもしろ}いことをやりたいから^{きょく}曲^がバラ
けたんじゃなく、単^{たん}純^{じゆん}にやりたいも
のをやったらバラけてしまった^{かん}感じ^{です}です
ね。

なるほど、それは^{かん}感じ^{ます}。何か^{なに}ライヴ
でこういうのが^う受^うけるから—^{みたい}な

してん^{してん}か^かいてないのは^{あき}明らか^にわかりま
すね。

将：まさにそうです。

あと、オトナが^き聴くと“この^{きょく}曲、あの
アーティストのアレっぽいな”って^き聴こ
えてニヤリとするんだよね。

沙我：^{おれ}俺は逆^{ぎやく}にそう思^{おも}ってもらった方^{ほう}
が^{うれ}嬉しい^{です}。

マジ？ ^い言^いっちゃい^けないと思^{おも}った！

沙我：むしろニヤリと^{おも}してもらいたいで
す。だって俺^{おれ}らが意^い識^{しき}したのは、みんな
カッコいいバンドだから。

それ^き聞いてホッとした（笑）。だ^きとした
ら8^{きょくめ}曲目の「Drella」なんて^{かんぜん}完全^ににメタ
リカじゃないですか。

虎：メタリカを……^{かん}ダウン^{させ}た^{かん}感じ^{です}です
ね。

さぞやドラムも^{たいへん}大^{たい}変^{へん}だ^{かん}ったん^{じゃ}ないか
と思^{おも}いますが。

Nao：そうですね。^{けっこう}結^け構^{こう}ツラ^かったです
（苦笑）。体^{くしょう}力^{りき}の限^{げん}界^{かい}に挑^{ちょう}戦^{せん}しました。

ただ、ツライのは^{かずしょうせつ}数^{かず}小^{しょう}節^{せつ}なんですよ。

そこに^{ぜんしんけい}全^{ぜん}神^{しん}経^{けい}を^と研^すぎ澄^すますっていう。
自分^{じぶん}の腕^{うで}を^みながら^{たた}叩^{たた}くと、もう^{けいれん}痙^{けい}攣^{れん}
して^るみたい^{です}から。

^{からだ}体^は張^はってますね。

Nao：張^はってますよ！ おかげで^{せなか}背^せ中^{なか}を
いた^{いた}痛^{いた}め^めした。でも、それ^もぐ^もら^もい^もス^もキ^もル^もと^とレ^と
ベル^をを^もと^とめ^めら^られ^れて^てて。だから^{じかん}時^じ間^{かん}の^{ゆる}許^{ゆる}す

かぎ
限りスタジオにいて、初めて体が練習
りょう
量についていけない感覚を味わいまし

た（苦笑）

まんしんそうい
満身創痍ですね。ギターにかんしても、こ
の先さきどんどんプレイスタイルがひろがって
いきそうな予感よかんがしますけど。

虎：まだまだこれからです。

ヒロト：こんかい今回はギターを弾くことに
しゅうちゅう
集中できたんで、いろいろ出来ました
よ。

じゅんすい す おんがくようそ だ かん
純粋に好きな音楽要素がだ出せたって感
じがしますよね。

虎：ある程度意識ていどいしきしても個性こせいは出るがな
って。

これは、アルバムを掲げたツアーがどう
なるのか、非常にひじょう楽しみな気がしますね。

たぶん、お客さんのノリも変わってきやくく
るんじゃないかな。特に7曲目の「www.」
って、みんなに歌うたって欲しい楽曲うただし。

沙我：それはイメージしました。歌うたって
くれ！

バラードは歌うたうけど、アッパーな曲きょくで
歌うたう習慣しゅうかんが日本にほんに定着ていちゃくしてない気がす
るんで。

将：このアルバムには歌うたって欲しい歌詞かし
がいっぱいあるんですよ。

ヒロト：何なんていうか……日本にほん的な歌うたい方かた
じゃなくて、もっと大きなノリで一緒いっしょに
歌うたって欲しいです。

さいご
最後にアルバムのオススメポイントを、
それぞれにきいていこうかな。

虎：俺おれは1曲目の「the beautiful name」
と最後の「Waterfall」。最初さいしょと最後さいごを
きいたら、途中とちゅうも聴きたくなるかなと。
ぜんぶ き ほ
全部聴いて欲しいだけにね。

沙我：俺おれら古風こふうなバンドなんで、曲きょくと
曲きょくのつながりにもすごくこだわってるん
ですよ。今の時代いまと合あってないかもしれ
ないけど、だからこそ、このアルバムは
あつしゅく
ぜひ圧縮あつしゅくされたダウンロードじゃなく、
ばん き ほ
盤で聴いて欲しいです。

ヒロト：僕ぼくは1、2、3曲目の流れながです
ね。ライブだろう！って感じかんじゃないで
すか。あと、こういう音おとを出だしているバ
ンドって、今のJ-POPシーンにはい
いま
ないとおもうんですよ。単純たんじゆんにサビがく
るだけじゃない、もっと大きな流れながを聴
いて欲しいです。

将：俺おれ、『Alpha』を作つくった頃ころの自分じぶんの
かし よ かえ
歌詞かしを読み返よしたら、思春期ししゅんきの時ときに比べ
ふつう
て普通ふつうになってるなって感かんじて。そうい
うのを壊こわしたくて、アニメとかよく見みて
たんです。

そっちにいきましたか（笑）。

将：突飛とつびな表ひょう現げんがナチュラでルに出でてく
るようじぶんに自分じぶんをバージョンアップしよう
とおも
とおもって。それで頭あたまのネジねじをはずした

結果、2曲目の「百花繚乱」みたいな歌詞になったりしたんで、その辺を聴いて欲しいです。

Nao：今回、ここにきて俺のドラムプレイは、高校男子の性欲ばりに何かを求めている……という。

……リアクションに困りますな（苦笑）。

Nao：これからはエロかしこカワイイ系で！

えーと（苦笑）。09年にはアルバム・ツアーもあるはずですからね。こちらも気になりますけど。

ヒロト：いいアルバムが出来たあとのバンドのツアーって、すごいものになると思うんですよ。バンドはやっぱりライブありきだし、ライブかあって曲が生まれて、そこから自分達がスケールアップできるアルバムができたから、ライブでも大きくなったアリス九號.が見せられると思います。

将：アルバムの曲は、このCD以上にカッコいいライブ・アレンジしてお披露目する……と、沙我君が言ってます！

沙我：そうですよ。これは“みんなのうた”なんです。お客さんの中にも、よく“隣の人が歌っててウザかった”なんて人がいるけど、それは違うと。歌うことは何も悪くない！

そのためにはアルバムを聴き込むべしですね！ 楽しみにしてます。